

ASEAN 諸国への啓発と疫学研究

猪股 裕紀洋 熊本労災病院 院長

松浦 俊治 九州大学病院総合周産期母子医療センター 准教授

吉岡 秀人 ジャパンハート

【研究要旨】

我が国における小児期から移行期・成人期に至る希少難治性消化器疾患につき、本研究班での多面的な調査研究をもとに、その実態や治療方法などについてASEAN諸国への啓発を行い、さらに各国における疾患発生や治療の状況調査を行い、国際的な支援につなげていく。

A. 研究目的

難治性消化器疾患の診療におけるASEAN諸国への診療支援を通じた病態と治療に関する啓発の深化。厚生労働分野における国際支援の基礎作りを行う。

B. 研究方法

ASEAN各国でまだ開発途上にある、生体肝移植手術の確立支援を行うため、ベトナムやミャンマーなどの病院と協定を結んだ上で、日本国内における医療人の研修要請、手術や周術期管理実施のための人員を派遣しての手術支援を行う。これを通して、対象疾患の病態や治療に関する啓発活動を行い、さらに、各国の当該疾患の発生や診療の実状を調査して疫学的情報を得る。

（倫理面への配慮）

各国における生体肝移植の実施に伴い、そのドナー選択が倫理的に問題になる。民族や国家による価値観の違いなどがあるが、基本的に日本国内で行われているような倫理的基準で生体ドナー選択の倫理的担保は確保している。

C. 研究結果

一昨年度末以来、小児胆道系疾患に対する生体肝移植の実施について、現地治療対象症例の絞り込みや日本国内での研修についてメールなどによる意見交換を行ってきたが、我が国と先方諸国におけるCOVID-19の蔓延に伴い、人的交流が不可能な状況が持続し、診療や研究の実施

が困難であった。現地の意思への治療助言などは継続してwebで行った。感染状況の好転をみて、次年度実施すべく、情報共有を継続した。なお、国内で、肝移植に関する診療研究は継続し、啓発活動の材料を得る活動は継続した。

D. 考察

考察材料が十分ない。

E. 結論

COVID-19による研究進捗の障害が著明であったが、感染収束に伴い早期に再開できるように態勢を維持する。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表
なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし